

# 開発 教育 ニュースレター



ベトナム・カンボジア国境でココヤシの実を売る少女。  
あなたは、どんな時に「国境」を意識しますか。

大島芳雄（神奈川県）

No. 38

1992. 9



8月22日～23日の2日間、東京渋谷の青年海外協力隊広尾訓練所を借りて、恒例の「開発教育全国研究集会」が開かれました。

記念すべき10回目を迎えた今年のテーマは、「開発における女性の役割 - 視点をずらして見えてくるもの」。200人を超える人々が集い、たいへん賑やかな会になりました。

今年の特徴は、大学生の参加がひじょうに多かったことです。専門家だけではなく一般の若い人々のあいだでも「開発教育」への関心が高まってきたことの、ひとつの表れかもしれません。

そのせいか、2日間の集いは、終始明るく、活気に満ちていました。分科会や全体会のグループ・ディスカッションの場でもそうですが、懇親会や、夜の二次会、さらには集会終了後にも、参加者が互いに活発な意見交換、情報交換をして、新しいネットワークを広げていました。

今回は、NGO関係者の参加が少なかったのが残念ですが、それは来年に期待しましょう。

来年の「全国研究集会」は、首都圏を離れ、地方での開催が予定されています。さらに充実した集いを実現させましょう。

なお、今回の詳しい内容は、23号の機関誌『開発教育』で報告いたします。



開発教育を広くとらえます  
ユニセフの開発教育

ユニセフの開発教育は、子どもが自分の暮らしや他の人の暮らしを「世界的」視点でとらえ、また人々がいかにどう関係し環境にかかわっているかを知ることの意味する。世界的という言葉は、地球上のさまざまな問題を空間的・時間的な広がりの中で、総合的にとらえさせようとすることを意味する。そこから、開発教育は子どもに対して子どもが地域社会、国、国際レベルで世界市民になるのに必要な知識、技能、態度を教えるものだといえる。

開発教育は内容と学習方法によって具体化することができる。開発教育はさまざまな国際、国内問題に展望をあてるものであり、その展望は、相互依存・イメージと物事の見方、紛争・社会正義・未来という世界的な概念でとらえさせることになる。また探求し体験しながら、知識だけでなく参加するという積極的な行動の姿勢の育成までも含んでいる。

基礎教育・識字教育をひろげるための  
新しい発想 - メディア機器の利用

西暦2000年までに学齡児の80%が就学している状態にしようとか、成人の非識字率を極力引き下げようという、1990年の国際識字年にかかれた世界会議による「西暦2000年にはすべての人に教育を！」というスローガンは、言うに易く実行するに難しいものだ。ユネスコの統計推測は、今までの教育発展の傾向からみると、不就学の6-11歳児は年間100万人のペースでしか減少せず、西暦2000年になっても、1億人を越える子どもが不就学の状態であり、9億4千万人を越える15歳以上の成人が読み書きできないままにしていることになる。そこで成人の識字率や児童の就学率を高める新しい方法はないものかという模索が始まっている。

これまでも、社会的に通用する学歴を証明してもらえない通常の学校というフォーマルな場での教育に加えて、学習の実をあげることができるが学歴には換算されないインフォーマルな教育の場を利用して、学校外の青少年教育や識字教育が行われてきた。またそれぞれの中で、教育の機会を広げ質を向上させるための革新的な方法が、数多く試みられてきた。しかし、現実にはさらにもう一つの基礎教育の手段を開拓する必要があるというわけである。一年前にユニセフが招集した「基礎教育第三のチャンネル」に関する専門家会議では、新しい教育の場や方法として、ラジオやテレビの利用、携帯用プログラム学習機器の利用、人口衛星によるデジタルラジオの利用、人口衛星放送大学など、エレクトロニクス機器を利用するいろいろな発想や新しい経験が紹介され、その可能性が検討された。

通常の教育では教師、教室、教科書が揃っていることが必須の条件である。インフォーマルな教育も、学習の時間や教科書の内容をくふうしているが、この三点が揃わなければ成立しない、また従来の通信教育の考え方は、日常的な教室はいるが、教材とスクリーニング(教師と施設がいる)がともなっている。これらの条件をどう省略あるいは簡略化して、学習の実がある手段を開拓できるかということが、西暦2000年をめざして識字成人を増やしていく戦略の鍵だと考えられた。

特に、発展途上国の中でも学校などへのアクセスのない、とりわけ貧しかったり、僻地に住んでいたり、少数民族であったり、社会的に冷遇されていたりする不利益集団が、識字教育・学校外教育を拡大していく場合の大きな対象層であるわけだから、第三の手段を見つけることができるかどうかという問題は、すべての人に教育をという発想を実現できるかどうかにかかっている。教師を養成する時間と予算、教科書を作成して配布する時間と予算と配送手段、学校を建築する時間と予算、いずれも絶対的に不足している発展途上国だからこそ、教育普及のための新しい手段を開拓しなければならない、というわけである。

この要望に応じて、アメリカ合衆国のいくつかの団体が、基礎教育のための学習工学フォーラムという組織をつくり、ラテンアメリカやアフリカで教育機器を利用した学習の場を広げようとしている。バッテリー利用のラジオ受信機や携帯可能な小型プログラム学習機器が学習集団に一台あり、マニュアルによって学習活動をすすめていくコーデイナーやその助手(いずれも教員資格をもっていることを求めない)がいれば、どこでも開講できるし、印刷教材を利用することもなく、対経費効果は抜群によいとされている。もちろんプログラム学習でもラジオ学習でも、学習対象者に適したソフトが必要だが、ラジオのプログラムとしては、今までのところ、成人向けに算数、理科、保健衛生、環境学習、生活法律知識、スペイン語、英語などが開発されているという。発展途上国の不利益集団とハイテクという思いもかけない組み合わせが識字教育の実をあげていくとすれば、ちょっと見過ごせない話題である。

リオ地球サミット後の  
開発教育・環境教育の課題

ブラジルのリオデジャネイロで、6月に環境と開発に関する国連会議が開かれ、環境保全と環境汚染防止の立場と貧困からの脱出をめざす開発志向との間で、激しい論議があったことは、マスコミでも伝えられていたが、ともかくも、これは環境と開発を同じまな板の上のせてとらえてきた最初の試みである。この環境と開発に関する地球サミットの論議をうけて、開発教育や環境教育はどのような課題を背負ったことになるのだろうか。Development Forum 7-8月号に掲載された三つの記事から、まとめてみる。

リオ・サミットで採択されたアジェンダ21には「教育・世論の認識・訓練」という項目が含まれている。また並行して開かれたNGOフォーラムは「人類社会の維持と地球に対する責任をうながす環境教育についての協定」を発表した。そのいずれもが、地球と人類社会の「維持が可能な開発(sustainable development)」をキーワードにしている。そのことから、環境と開発を教育の中に統合する課題が生ずる。特に発展途上国から、環境教育だけでなく開発教育をもとに教育の中に位置づけていくべきだという強い主張があったという。その際の開発教育というのは、開発とはなにかを主体的に学習する教育、という意味が使われたのだろう。また、発展途上国は維持可能だけでなく、公正な開発という考え方を主張した。

注 ふつう Sustainable Development は「持続可能な開発」と訳されていることが多いが、ここでは、地球の生態系を維持することが可能という意味で「維持が可能な開発」と訳した。

維持可能性を考えるというのは、まったくの新しいアプローチを意味するはずだ。たとえば輸送システムの専門家は車や列車や航空機が移動するための計画をつくることはとも、消費地の近くで食料生産をすすめるとか、職場の近くに住居をおくなどという、輸送不要のシステムを考えたりはしない。維持可能性を考えるというのは、そういうように、輸送システムの専門家が従来の輸送システムを不要とする発想をすることを求めている。総合的、学際的に、根本から課題をとら直すことである。

また、維持可能性という時には、環境を広義に理解しなければならない。人間、その欲求や楽しみ、伝統や価値観、文化、希望までも含めて環境という概念を理解すべきである。

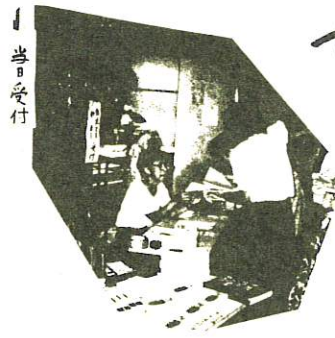
開発教育も環境教育も、これまで学問の世界では無視あるいは冷遇されてきた。伝統的な学問体系の中に納まらずに、学際的なアプローチによっているからである。しかし少しずつ変わってきている。最近、世界の22の大学の学長がフランスのタロワールに集まって、維持可能な開発をすすめるためにはたすべき学問の役割について論議し、タロワール宣言を発表した。この宣言には、その後、百を越す大学の学長が署名している。学問の世界も根本的な代替を必要としてきているのは明らかだ。

開発教育も環境教育も、維持可能な開発をめざす人類社会にとって、欠くことのできない教育領域である。これからは、そのそれぞれが過去二十年来にわたって追求してきた教育実践の成果を、学校のカリキュラムの中にどう組み入れていくかということが、各国の課題となる。ユネスコやユニセフなど、国連の中で児童や教育を専門とする機関は、環境教育と開発教育をどう統合していくかについての協議を始めている。

生態系と人間の必要性をどう調和させていくかが、リオに集まった各国の課題であった。同じように、教育者は、環境教育や開発教育の、どちらか一方にこだわらないことが求められている。環境と開発国連会議の目的は、すべての人間に環境への関心と維持可能な開発を日常生活の中に織り込んで統合すること可能ならしめる、ことであった。環境教育の関係者も開発教育の関係者も、フォーマル教育の人々もインフォーマル教育の人々も、この会議の目的の実現をめざす新しい教育活動の発展に力を合わせるべき時である。

第10回 開発教育全国研究集会

東京 1992. 8. 22~23



プログラム

1日目

- 10:00 開発教育入門講座(希望者のみ)  
講師: 田中治彦(岡山大学教育学部)
- 13:00 開会挨拶、オリエンテーション
- 13:30 基調講演  
「開発における女性の役割」  
講師: 西野桂子(FASID 嘱託研究員)
- 15:00 課題別研究会  
第1分科会 「識字運動の展開」  
第2分科会 「開発における女性の役割」  
第3分科会 「開発と援助」  
第4分科会 「生活と開発問題」
- 18:30 懇親会

2日目

- 9:00 実践事例報告  
「家庭科教育における開発教育導入の試み」  
「社会科地理『東南アジア熱帯林破壊』についてのディベート学習」  
「ニューヨーク、開発教育研究会(りんごの会)の活動報告」  
「学生の手による開発教育プロジェクト」  
「絵本作りをとおした開発教育」  
「インドシナ難民へのボランティアの実践報告」  
「社会的思考力を高める社会科指導」など14例
- 12:00 昼食
- 13:00 全体会、まとめ、閉会挨拶
- 15:00 終了

Notice!

第4回「開発教育ワークショップ」のお知らせ

開発教育協議会の秋のメイン・イベントは、泊まりがけの「開発教育ワークショップ」です。今年のテーマは「主体的に学ぶ開発教育を求めて~海外の開発教育教材の方法を参考にして」。開発教育の「内容論」よりも「方法論」に力点を置いて、検討、作業を行います。

このワークショップは、夏の研究会からさらに一歩踏み込んで、共同作業の中で開発教育教材の制作を試みようというもので、3日間にわたって徹底した協議、作業を行います。夜は「開発教育を考える会」の白井香里先生が中心となって、恒例の「バー・かおり」が店開きするのも大きな魅力です。

日程は11月21日(土)~23日(月)の2泊3日。場所は、東京八王子の大学セミナーハウス。定員は30名です。

協議会事務局に「参加申込書」があります。詳しくは電話でお問い合わせください。



## 高等学校教育のなかでどのように開発教育を取り入れてゆくか 望月浩明 他

日本のNGOが、どのような開発教育のプログラムを持っているか、アンケート調査を行ない、そのなかに、学校教育のなかで実践可能なプログラムがあるかどうかを調べ、また実際にクラスのなかでそのプログラムを試してみたという、神奈川県立伊志田高校の望月浩明さん他、5名の先生方からなる研究グループの報告書の一部をご紹介します。

### アンケート結果

70団体に発送した結果、回答の寄せられた団体は、37団体であった。以下に、結果および考察をまとめてみた。

- 過去に開発教育のプログラムを実施したことがあるかという問いについて  
実施した…28 実施していない…9
- 実施したプログラムの対象については  
一般社会人…21 大学生…15  
中高生…17 小学生…10 幼児…2  
外国人…2 教員…2  
その他(労組、生協、専門学校生、ロータリー、PTA)

低年齢層に実施プログラム数が少ない理由としては、第三世界に対する理解が難しいためであると思われる。ただ、高校生について見てみると、プログラムを行なう際に、例えばグループで話し合うなどの指示を出しても普段慣れていないため、うまくゆかない場合も出てくる。

- プログラムの実施時間  
1時間…3 2時間…3 3時間…3  
2日間…4 3週間…2 様々…8

プログラムをどの時点で区切るかによって、実施時間は異なってくる。講演会のように数時間で終わる場合もあれば、スタディーツアーのように何週間も連続して行なわれる場合もある。

- プログラムを行なった場所  
市民会館などの公共施設…12  
自団体の事務所・スペース…10  
学校…9 公園…2 外国…4  
その他(教会、野外)
- プログラムは定期的なものか  
定期的なもの…17 不定期なもの…14
- 定期的実施している場合、どのくらいの割合で行なっているか  
月に1~2回…5 年に1~2回…7  
年に3~4回…2 年に5~6回…2
- そのプログラムは何年くらい継続して行なわれているか  
1年…2 2年…3 3年…2  
4年…2 5年…5 7年…1  
10年…3 12年…1 13年…1  
14年…1 30年…1

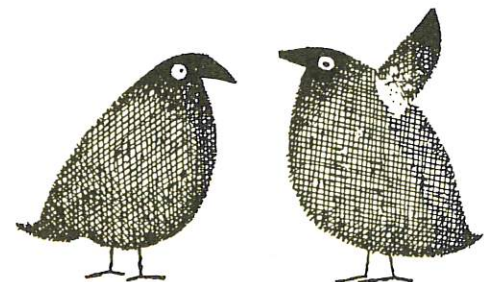
- プログラム実施にかかる費用について  
実費…2  
宿泊費と教材資料代、2~3万円、5~6万円、15~16万円、23万円、38万円、150万円、200万円、250万円、1200万円、4000万円、5000万円、1億円 (以上各1ずつ)

費用については国内と海外で実施するものでは大きな差が生ずる。また、継続して行なわれるセミナーなどは額が大きくなっている。

- プログラムを実施する際に用いる器具、機材、特色ある方法  
スライド…10 ビデオテープ…8  
写真やパネル…5 16ミリフィルム…4  
テキスト…3 工芸品…2  
その他(生活道具、ブックレット、カレー料理、現地で働く、等)

- 実施しているプログラムの種類  
1種…5 2種…2 3種…3  
5種…2 6種…2 8種…1  
10種以上…1

- 実施しているプログラムの内容  
講演会…13 スタディーツアー…8  
児童・生徒向け講座…3 巡回講演会…3  
キャラバン…2 カレーエイド…2  
手工芸品・特産品販売…2 研究会  
オープンハウス 現地人との対話会  
バザー スピーチフェスティバル  
ワーカー育成セミナー 切手収集運動  
ホームステイ 自転車ツアー 識字講座  
大学のゼミへの参加 フェスティバル  
牛乳パック回収運動 里親交流会  
民俗衣装の着付け ビデオ、スライド上映  
スライド、ビデオの貸出し 映画会  
(現地での)住宅作り、トイレ作り、井戸作り、水道作り



## NGOとの合同授業の実践

学校教育の中にかけるプログラムを持つNGOは数多く見られるが、本校ではシャプラニールと協力して一年の「現代社会」の授業で特別講座を試みることにした。シャプラニールとはバングラデシュで援助活動を行なっている民間援助団体である。昨年文化祭で福祉委員会がシャプラニールを通してバングラデシュの民芸品を販売しその売上げをシャプラニールに送っていること、また、新年募金運動でやはり募金の送付先としてバングラデシュがあったことなどから、この団体を選んでみた。

まず職員の理解と協力を得るために職員会議に提案した。特に異論もなく実施は決定した。実施主体は社会科、それを国際理解教育推進委員会がサポートする形で進めることにした。

生徒に対する啓蒙活動としてパンフレットを各教室に掲示した。授業を受けなかった生徒にも参加を呼び掛けてみた。また、一般の教員に対してもパンフレットを配布して参加を呼び掛けた。

シャプラニールとの打合せのなかで事前に理解を深めるためにデモンストレーション・ビデオを生徒に見せておく方がよいということになり25分のテープを送ってもらい上映しておいた。また、資料を準備し生徒に配っていった。

当日は3クラスそれぞれ工夫をこらした授業が行なわれ、以下のような反応があった。

授業後に調理室でバングラデシュ・カレーを食べながら講師の方と話し合う場を設けたが、職員の出席は20名近くあったが、生徒の方への宣伝がうまくいかなかったため参加者がなかったことが残念であった。

## Local Action 2

### 社会科トーク「マリオが死んだ」(神奈川県立多摩高等学校)

多摩高校では、毎年1回、社会科の先生方が中心となって、「社会科トーク」という催しが行なわれています。これは、校外の一般の人にも公開で、ゲスト・スピーカーを招いて、講演会、交流会を行なうもので、今年で3回目になります。先日、その様子取材させていただきました。

この日の話題は、1989年12月、横浜で起きたフィリピン人どうしの殺人事件のことでした。あるボランティア団体が開いたクリスマス・パーティーの帰り、ささいなことから喧嘩が始まり、止めた入ったマリオという青年が、包丁で刺されて死にました。事件を担当した弁護士の三木恵美子さんからその時の様子の説明と、次のような問題提起がありました。

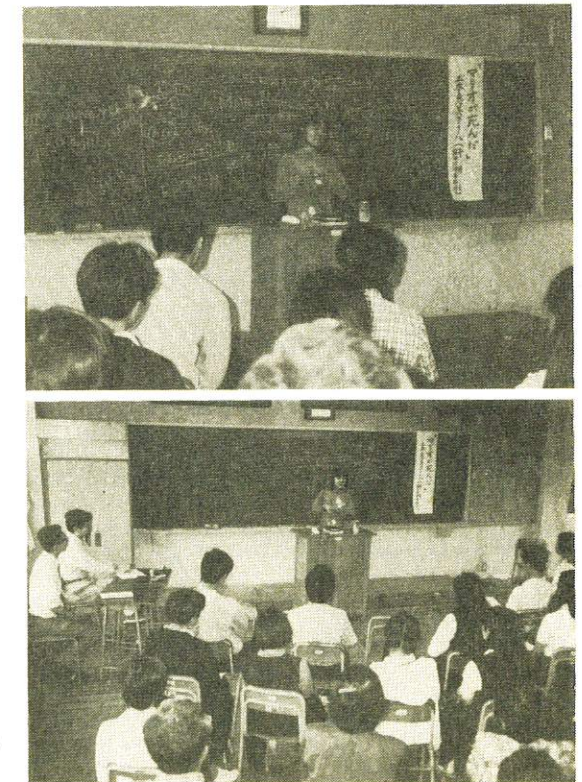
- ① 事件が起きたとき、現場にいた日本人がみな逃げたのはなぜか。
- ② 救急病院の守衛が「こういう人は、うちでは診ないですよ」と言って、診療を拒否したのはなぜか。
- ③ 日本人が、集めたお金をフィリピンの遺族に送ろうとしたとき、フィリピン人の友人達は、そのお金でマリオの奥さんと呼び寄せ、夫の死を確認させるべきだと主張した。これについて、どう思うか。

高校生からも次々に鋭い質問がとび、さまざまな問題意識が生まれました。異なる文化を持つ人々と共に生きる難しさと大切さを改めて考えさせられた4時間でした。

このプログラムの実施主体の社会科、国際理解教育推進委員会のメンバーは「高校教育と開発教育を考える会」のメンバーがすべて兼ねている。

### 生徒の感想(アンケートから)

- ・民俗衣装を実際に着てみる事ができておもしろかった(11)
- ・サリーも着てみたかった(3)
- ・現地の言葉を話してほしかった(4)
- ・写真がよかった(3)
- ・日常生活のことももっと知りたかった(2)
- ・実際にバングラデシュの人と話したかった(2)
- ・話がまとまっていなかった
- ・ビデオテープがよかった
- ・西洋と東洋の境界であるという話がおもしろかった
- ・人々がどのような点で困っているのか具体的に知りたかった
- ・実際に品物を持ってきて説明したのがよかった
- ・本当の良さは実際に行って見て現地の人と接したほうがよく分かる
- ・楽器や文化についてもっと知りたかった
- ・のんびりした国のようだ





# 『オルタ』

アジア太平洋資料センター (03-3291-5902) ¥1200

7月のニューズレターで紹介したかったのですが、編集日の都合で今回になりました。今年6月創刊の新しい雑誌(年4回発行)です。編集長は『エビと日本人』(岩波新書)の村井吉敬さん。「世界を変える、わたしたちが変わる」というのがこの雑誌のキャッチフレーズです。

創刊号の特集は「多民族社会を生きる」。アマゾンの水銀汚染と先住民の権利問題、外国人労働者が差別される日本の医療制度、日本で売春を強いられたタイの女性の問題などが取り上げられています。

タイの女性の売春裁判の傍聴記を読んで連想したのが、「従軍慰安婦」の補償問題です。経済最優先の社会の中で消費しきった日本の企業戦士たち。「ジャパゆき」さんは、ひょっとしたら現代の従軍慰安婦なのかもしれません。過ちを繰り返さないために、「オルタナティブ」な(もうひとつの)世界をみんなで考えなければなりません。

次号の特集は「百姓は世界を変える」です。



## Bulletin Board

### ユニセフ資料キット「教育」

㈱日本ユニセフ協会では、「教育」をテーマにした資料キットを無料で配布している。

キットは、A4版のポスターと、「女子と女性の教育」「開発教育」「村民のための基礎学習(セネガル)」「非識字を追放する(エチオピア)」などの資料や統計データ、それに『文字は翼をもったことば - 識字教育とユニセフのとりくみ』という小冊子がセットになっている。

問合せは同協会(03-3355-3221)まで。

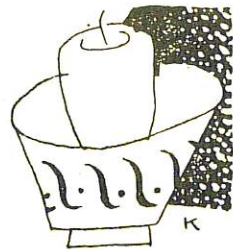
### 環境教育ガイドブック

㈱日本ユネスコ協会連盟が、小学校教員向けの環境教育のガイドブックを発行し、全国の小学校などに配布している。

内容は次のとおり。

- 1章 環境教育の課題
- 2章 環境教育の内容と方法
- 3章 ロールプレイの授業を作ってみよう  
「さつき川の氾濫」の事例をもとに
- 4章 環境教育のエクササイズ
- 5章 環境教育に役立つ  
視聴覚教材、副読本、手引書

入手方法、その他についての問合せは、㈱日本ユネスコ協会連盟(03-3340-3921)まで。



### シャプラニール創立20周年記念・開発教育ビデオ

シャプラニール=市民による海外協力の会は、バングラデシュで、貧しい農民によるグループ活動を支援し、識字学級、保健衛生、各種収入向上事業、災害救援活動などを行なっているが、この度、南北問題をテーマとした分かりやすい視聴覚教材として生徒向け(高校生以下)、一般向け(高校生以上)の2種類の開発教育ビデオを制作した。監督は『マザー・テレサとその世界』の千葉茂樹さん。タイトルは、生徒向け作品が『わたしの国、わたしの村 - バングラデシュ』、一般向け作品が『ボイラ村から - ある草の根海外協力の試み』。

ビデオの規格はVHSで、生徒向け、一般向けとも1本4,500円で購入できる。入手についての問合せは、同会事務局(03-3202-7863)まで。

### WWF J環境教育研究会(仮称)メンバー募集

㈱世界自然保護基金日本委員会(WWF J)では今年度から環境教育事業をスタートさせることになった。具体的には、環境教育研究会を設立し、専門的立場からの意見を集めながら、プログラムを開発していくという。『WWF J環境教育ニューズレター』の発行も予定されている。

研究会への参加希望者は、次の項目について記入の上、9月10日までに書面で申し込むこと。ニューズレターの講読のみの希望も受け付けている。

- ①氏名、住所、電話番号
- ②勤務先名、所在地、電話番号、所属部署、担当教科もしくは専門分野
- ③WWFの環境教育事業に対する期待
- ④環境教育の場でのこれまでの経験
- ⑤日本の環境教育に関する持論など

宛先: 〒105 東京都港区芝 3-1-14 日本生命赤羽橋ビル6階 WWF J 自然保護室EE係  
問合せ: 03-3769-1713 (安部・村田)

## エチオピアの人々を飢餓から救うために

シャプラニール、曹洞宗国際ボランティア会、世界の子どもと手をつなぐ会など、国際協力に携わる11の市民団体が構成されている、国際緊急救援NGO合同委員会では、厳しい干魃と害虫の被害に見舞われ、今世紀最悪といわれる飢餓状態に苦しむエチオピア北部のティグレイ州の人々を救うため、緊急の募金活動を行っている。今回の募金は、以下の目的に使われる。

- ・緊急食糧援助 ... 1,000万円
- ・移動診療車 ... 300万円
- ・医薬品 ... 200万円

募金の宛先は次のとおり。今年11月末日まで受け付けている。

郵便振替口座 東京9-2110  
国際緊急救援NGO合同委員会

## タイ国境のビルマ難民を救うために

軍事政権下のミャンマーからタイ国境に逃げてきた難民を救済しようと、タイのチェンマイ大学内にある非営利のボランティア団体「ビルマ救済センター」(BRC)は、緊急食糧援助、医療衛生活動、キャンプ内の子供のための教育プロジェクトを続けているが、その資金のために全世界的に寄付を募っている。寄付提供者には、金額の多少にかかわらず資金の用途についての英文の報告書が送られる。

募金は、銀行送金、小切手、郵便為替のいずれでもかまわない。

連絡先 (Ms.) Pippa Curwen,  
Program Coordinator  
Burmese Relief Centre  
P.O. Box 48, Chiang Mai University,  
Chiang Mai 50002 THAILAND  
銀行口座 Burmese Relief Centre  
Account No. 3900 4814 03  
Bangkok Bank  
Pratu Chang Phuak Branch  
125, Chang Phuak Rd. Chiang Mai,  
50000 THAILAND

## Membership

### 新入会員

野副達司(東京) 美澤祐紀(東京) 谷岡 晃(埼玉) 宇治川 秀(東京) 吉田八千代(新潟) 大迫勝博(東京)  
南北ネットワーク岡山(岡山) 河内徳子(埼玉) 開発を考える会(神奈川) 高橋 輝(東京) 古賀梨子(福岡)  
牧野和幸(神奈川) 榎木洋子(愛知) 内山三郎(兵庫) 尾中夏美(岩手) 宮 順子(岩手) 正木裕子(神奈川)  
宮崎公仁子(茨城) 森 愛(広島) 東和大学国際研究所(東京) 林立彦(東京) 水島洋子(静岡)  
安江京子(神奈川) 上別府隆男(東京) 青木憲代(神奈川) 加藤秀麗(東京) 堀川真美(愛知) 橋向真敦(福井)  
佐野 伸(兵庫) 幡鎌芳明(神奈川) 重富恵子(東京) 池ヶ谷洋美(静岡)

### 継続会員

吉住知文(埼玉) 森 良(東京) 藤原 樹(岡山) 新田ゆかり(埼玉) 佐々木康男(福井) 杉原輝明(京都)  
ピセンテ・ボネット(東京) 中島隆安(東京) 浅野ゆき(大阪) 山口哲子(福島) 杉山尚子(神奈川)  
関西セミナーハウス(京都) 杉浦豊子(東京) 長島京子(神奈川) 瓜谷郁三(愛知) 西川 潤(東京)  
鍋倉伸子(静岡) ユニセフ関西市民の集い(大阪) 木原三彦(埼玉) 赤石和則(埼玉) 森岡嘉代子(東京)  
鈴木聖二(埼玉) 安藤理恵(神奈川) 荒木敏之(大阪) アジア協会・アジア友の会(大阪) 中津美和(京都)  
小林 榮(東京)

以上、いずれも1992年6月10日~8月7日受付分、敬称略、受付順

5月の総会で、今年度の開発教育協議会役員が、以下のように決定しました。

### 理事(団体)

村上公彦	(株)アジア協会・アジア友の会
白井香里	開発教育を考える会
柳坪博之	(株)国際協力推進協会
川口善行	シャプラニール =市民による海外協力の会
湊 明弘	(株)青年海外協力協会
有馬実成	曹洞宗国際ボランティア会
平田 哲	日本クリスチャンアカデミー 関西セミナーハウス
高木 勇	(株)日本シルバーボランティアズ
有馬正英	(株)日本ユニセフ協会
宮崎幸雄	(株)日本YMCA同盟

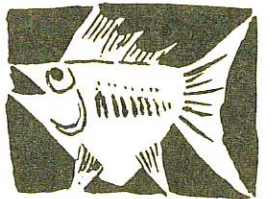
### 理事(個人)

金谷敏郎	園田学園女子大学
田中治彦	岡山大学
寺尾明人	国際基督教大学
松下俱子	ガールスカウト日本連盟 東京都支部
山西優二	早稲田大学

### 監事

北村暁晴	中央青少年団体連絡協議会
茂呂雅之	

なお、この他に、雨森孝悦事務局長、25名の運営委員と3名の事務局員が、協議会の運営にたずさわっています。





## チャリティーウォークかまくら'92

北鎌倉から地図を片手に出発。寺、史跡を訪れ、各所に設けられた寄付先NGOのブースで第三世界と出会いながら、鎌倉海浜公園まで、8kmのコースを歩く。

※日本国際ボランティアセンター、シャプラーニール、サヘルの会、タイ国際児童のための財団横浜連絡事務所、バグアライ・ナン・プソ(心の提供)基金

と き: 10月18日(日) 10:00~17:00  
 ところ: 神奈川県鎌倉市(北鎌倉駅集合)  
 問合せ: ☎045-671-7082  
 (チャリティーウォーク実行委員会)

## ヒューマンライツフェスティバル・福岡

「人権」をテーマに、コンサート、落語シンポジウム、バザー、アジア・アフリカ屋台、民芸品・自然食品・環境グッズの展示販売会などが行われます。

Aブロック ソラリアプラザ  
 9月25日~27日  
 Bブロック 天神メディアプラザ  
 9月22日~27日  
 Cブロック 警固公園  
 9月26日~27日  
 問合せ: ☎092-524-9050  
 (フェスティバル実行委員会)

## 日本ユネスコ運動全国大会

と き: 9月26日(土)~27日(日)  
 ところ: 丸亀市民会館(香川県丸亀市)  
 問合せ: ☎0877-22-7330  
 (ユネスコ全国大会事務局)

## オーストラリア・アボリジニ展

- 狩人と精霊の五千年 -

オーストラリアの先住民「アボリジニ」の文化、簡素な物質文化と豊かな精神生活を探る特別展。

と き: 9月10日~12月8日  
 ところ: 国立民俗学博物館(大阪)  
 入場料: 一般 1,100円、高校・大学 750円  
 小・中学生 350円  
 問合せ: ☎06-876-2151  
 (国立民俗学博物館)

## 外国人芸術家展覧会

中部圏在住の外国人芸術家の作品展。

と き: 11月3日(火)~8日(日)  
 ところ: 名古屋国際センター・展示室  
 入場料: 無料  
 問合せ: ☎052-581-3755  
 (名古屋国際センター交流事業課)

## 東南アジア映画祭 PART2

リノ・プロッカの遺産と  
 東南アジア・マスターピース

フィリピンの名監督、放りノ・プロッカの代表作3本と、タイ、インドネシア、マレーシア、シンガポール、ベトナムの新旧の映画17本を上映。

と き: 10月5日~22日  
 ところ: パウスシアター/ジャヴ50  
 (両館とも吉祥寺駅徒歩7分)  
 入場料: 1,300円(当日1回券)  
 前売り券はチケットぴあ等で  
 問合せ: ☎03-3780-1840  
 (東南アジア祭'92実行委員会)

※ 映画祭は、9月に、大阪、広島、福岡でも開かれます。問合せ先は、次のとおり。

大阪 特大阪21世紀協会 ☎06-942-2006  
 広島 広島県国際交流課 ☎082-228-2111  
 福岡 アジアマンス委員会 ☎092-733-5933

## 「日本人はアジアの仲間になれるか」

講演: 泉田スジダ  
 (アジアの問題を考える会代表)  
 と き: 9月13日(日) 13:00~16:30  
 ところ: 大宮市民会館(埼玉県大宮市)  
 問合せ: ☎048-622-8612  
 (国際ボランティアの会)

## 映画と懇話会

### 「侵略-教えられなかった戦争」

講演: 筑波大学付属高校 高橋先生  
 と き: 9月20日(日) 12:00~18:30  
 ところ: 富士見町会館  
 (東京・JR飯田橋下車徒歩5分)  
 問合せ: ☎045-981-0834  
 (映像文化協会)

## アジア民俗芸能フェスティバル

と き: 10月21日(木) 午後6時から  
 ところ: 中原会館「エポックなかはら」  
 (JR南武線武蔵中原駅前)  
 入場料: 無料  
 問合せ: ☎044-245-9881  
 (財団法人川崎市国際交流協会)

## “みずら”連続講座

### 「アジアの女性と生きるために」

9月6日 「何ができるの行政は?」  
 外国人が日本で暮らすとき  
 話: 神奈川県国際交流課  
 9月12日 「大使館からのメッセージ」  
 話: タイ、フィリピン  
 両大使館職員  
 9月18日 「入管ってなあに?」  
 話: 横浜入管職員  
 9月26日 「本当の国際連帯とは」  
 話: 星野昌子(JVC)

時間: いずれも午後2時から  
 ところ: 神奈川県政総合センター  
 (横浜駅西口徒歩5分)  
 参加費: 各回800円  
 問合せ: ☎045-451-3776  
 (“みずら”事務局)

## 「アフリカ-砂漠化と植林の政治経済学」

講演: 勝俣 誠(明治学院大学助教授)  
 と き: 10月3日(土) 18:00~20:30  
 ところ: 早稲田奉仕団204号室(東京)  
 参加費: 1000円  
 問合せ: ☎03-3770-6709  
 (サラワクキャンペーン委員会)

## シンポジウム

### 「地球に生きる子どもと子ども権利条約」

子供の国際的な権利擁護のための活動、国際理解教育活動、国内外のNGOのネットワークづくりの3つを活動の柱として、大阪で発足した、国際子ども権利センターの発足記念のシンポジウム。

と き: 9月19日(土) 14:00~  
 ところ: 大阪国際交流センター・小ホール  
 参加費: 500円  
 問合せ: ☎06-375-5466  
 (国際子ども権利センター)

※ 読者の皆さんからの情報をお待ちしています。締切りは偶数月の15日。協議会事務局(ニューズレター係)宛にお送りください。

## 開発教育

隔月刊

ニューズレター

1992年9月1日発行  
 第38号

発行: 開発教育協議会  
 〒169 東京都新宿区西早稲田  
 2-3-18-61  
 TEL: 03(3207)8085  
 (月・水・金 10:00~18:00)  
 FAX: 03(3207)0226

編集: ニューズレター編集チーム

お願い: ファックスには必ず「開発教育協議会」と宛名を明記してください。

## 編集室から……

■ 用意した配布資料が足りなくなり、あわててコピーを取りに走るほど、今年の「全国研究集会」は、大入り満員の大会でした。  
 ■ 協議会の運営委員は、全員がボランティアで、忙しい本業の合間をぬって、集会の準備をしました。とくに、中心となって動いてくださった、原庸子さんには改めて拍手をおくりたいと思います。  
 ■ 来年は東京を離れ、地方で開かれるという予定です。その土地の特色の出る研究集会ができれば、おもしろいのではないのでしょうか。

(K)

開発教育協議会は、開発教育の推進に関心をもつ団体、個人であればどなたでも入会できます。会員の方には、協議会が発行する研究誌をはじめ、ニューズレターや研究集会・ワークショップ等のお知らせをお届けします。また、研究集会の参加費割引の特典もあります。会費は1年単位を基本とし、その額は次のとおりです(いずれも1口あたり)。  
 団体会員 20,000円 / 個人会員 5,000円 / 学生会員 3,000円  
 入会の手続きについては、協議会事務局にお問い合わせください。